

## 7 国際交流

### 進捗状況報告

(1) 2003年度に設定した目標

1. 外国語による講義は「Japanese and Asian Economies A・B」に留まっており、今後の努力が俟たれる。
2. 教員の国際交流はリール第1大学との交流が引き続き行われており、さらに韓国・延世大学、シンガポール・シンガポール国立大学との教員とゼミ生同士の研究交流が行われ、活発になってきている。
3. 関西経済界との共同事業は今後の課題である。

(2) 2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」

1. 前項(1)の1.に記した通りである。
2. リール第1大学との研究者交流は引き続き行われており、3年に一度開催されている日仏雇用セミナーは3回目の会議を2007年3月にリール大学で開催された。来年度はEUIJ関西のプログラムを利用して、リール第1大学から研究者を1人招聘する予定である。欧州の他の大学やアジアの大学との交流はさらに努力を続けていく必要がある。
3. 地元経済界との協力を得た国際的連携としては本学産業研究所の主催した「日中経済シンポジウム」(2007年2月開催)には本学部の教員も深く関わり、さらに産業研究所は企業向けのイノベーション・フォーラムを2007年秋に開催する予定であり、引き続き本学部の教員2名がこの活動に直接参加している。

(3) 認証評価の結果

上(1)の3.に報告したように、本学部の学部生の協定校留学は以前に比して漸増傾向が見られる。経済学研究科における目標に関しては、大きな成果を得たとは言い難い状況となっている。

### 学内第三者評価

認証評価にもある、(2)の1. 外国語による講義の増加、および、交換留学生の授業参加や日本人学生の英語授業への参加については、今後の展開が期待される。それ以外は、国際交流の基本方針である教育の活性化と質的向上、国際的研究の推進や社会貢献、海外の大学との交流や協力関係は、概ね評価することができる。なお、外国の大学との研究交流、(1)の3. 関西経済界との共同事業については、漸進的ではあるが、順調に展開されている。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- 外国語による講義は限られているようだ。学生の英語力もさることながら、外部からの教員の登用も検討の価値があると思われる。
- 国際シンポなども一過性のイベントにならないような計画が必要である。